

視覚障害者の安全な移動

堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センター 点字図書館
ホーム転落をなくす会
原田 敦史

視覚障害者の安心・安全な移動

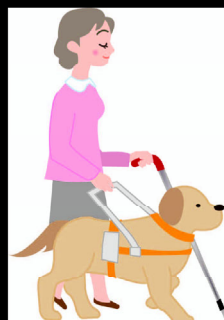
見えない・見えにくい方にとって最も困難となることの一つが移動です。

移動には、いくつかの方法があります。

- ・見えにくさによっては道具を利用せずに移動している方も少なくありません。
- ・どの移動でも事故やけがはありますが、白杖や盲導犬利用ではまだまだ事故が多くあります。



手引きによる歩行



盲導犬を使用する歩行



白杖を使用する歩行

視覚障害者の事故

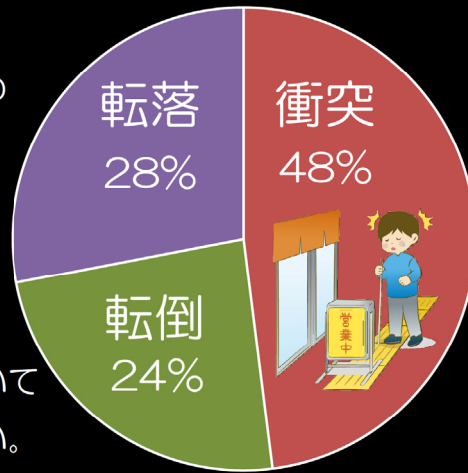
視覚障害者の歩行環境整備のための歩行事故全国調査より H16

<転落>

駅のホームから線路上への転落と階段が多い。

<転倒>

段差や縁石につまずいて転倒するケースが多い。



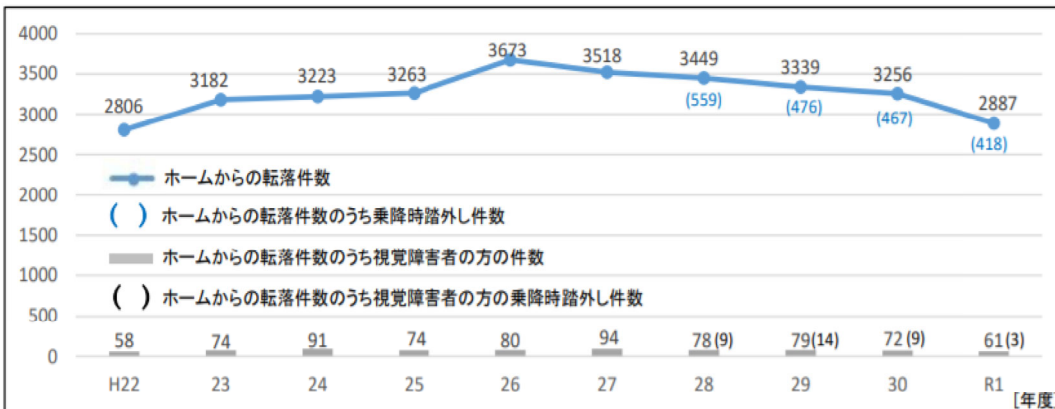
<衝突>

- 最も多いのは自動車との衝突（駐停車中、移動中、トラックの荷台を含む）
- 次に多いのは電柱・柱との衝突。駅のホームの支柱との衝突。

最も危険なものは「ホーム転落」 →次ページで

ホームからの転落件数推移

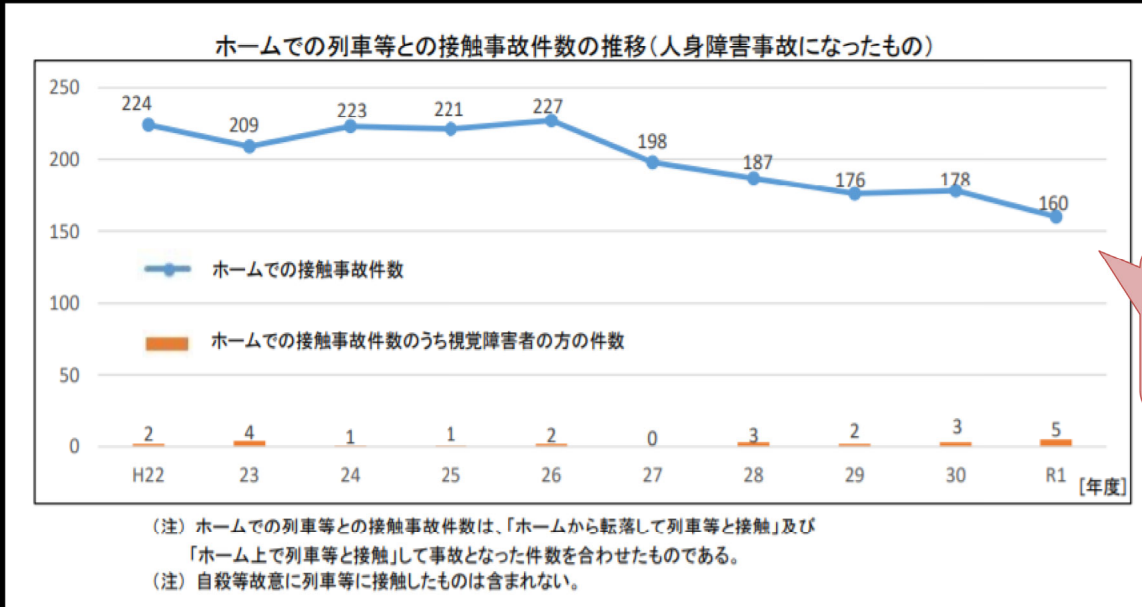
ホームからの転落件数の推移（人身障害事故以外）



転落件数は全体でも視覚障害者でも減少傾向ではある。

(注) ホームからの転落件数は、プラットフォームから転落したが列車等と接触しなかった件数である。
 (注) ホームからの転落件数は、鉄道事業者が把握している件数である。
 (注) 平成28年度から、乗降時踏外しにより、列車とホームの隙間に挟まったなどの事象も集計し、その値は、「ホームからの転落件数」及び「ホームからの転落件数のうち視覚障害者の方の件数」の内数として、それぞれ記載している。
 (注) 自殺は含まれない。

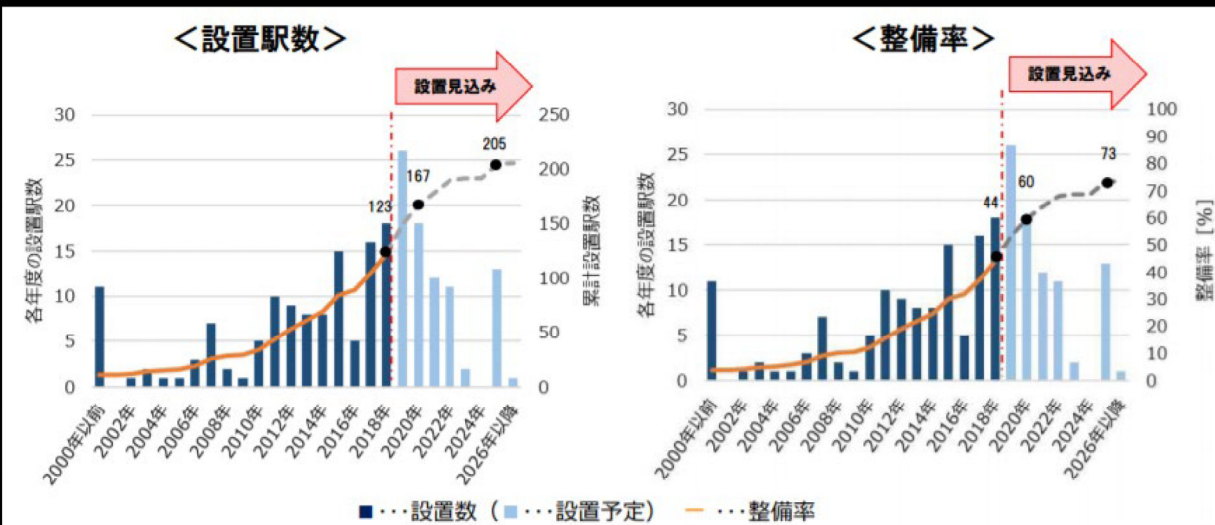
ホームでの列車等との接触事故件数の推移



接触事故は全体では減少しているが視覚障害者では減っていない。

国土交通省HP 駅ホームからの転落に関する状況

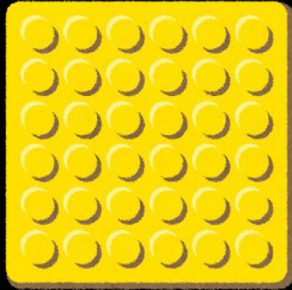
ホームドア設置駅数 (10万人以上の駅)



- 2018年度末時点で123駅の整備が完了(整備率:約44%)
 - 2020年度末には167駅の整備が完了予定(整備率:約60%)
 - 2025年度末には205駅(※)の整備が完了予定(整備率:約73%)
 (※)このほか、具体的な箇所が未定のため未計上だが、整備予定の駅あり
 - 2026年度以降の計画を合わせると262駅(注)の整備が完了予定(整備率:約94%)
 (注)※を含む
- 総駅数: 279(駅)

国土交通省HP 駅ホームからの転落に関する状況

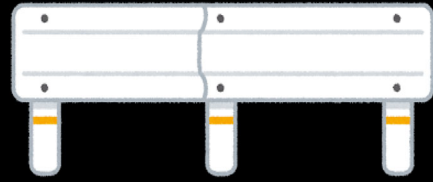
事故を減らすのはハードだけでは限界がある



点字ブロック



ホームドア



ガードレール

安全を確保するためにはハードだけでなくソフト面での対応が重要となってくる。

駅であれば駅員や乗客、街中であれば市民の声掛けが重要。
事故の8割弱が「衝突」と「転落」が占めているので見えている人が
少しだけ注意をして積極的に声をかければ事故は減らせるはず。

我々が立ち上げたのが 「ホーム転落をなくす会」

○ 2017年1月に設立

前年に起きた東京メトロ銀座線の死亡事故をきっかけに、
有志で集まり、以来、下記の活動を実施してきた。

○ ポスター・チラシなど全国に約42万枚配布、掲示

鉄道の駅貼りポスター：B2サイズ

- ・西武鉄道：全91駅
- ・名古屋市営地下鉄：全85駅
- ・一畑電車（島根県）：全26駅
- ・JR西日本 岡山駅他、13駅 など

○ 団体でのポスター配布、掲示

日本眼科医会、大阪府眼科医会など



活動の大きな目的は

多くの人にチラシ・ポスター等を見てもらうことで「声掛け」の方法をしてもらい、事故を減らしたい。

①危ないときは止めてください。

②困っているときは声をかけてください



インターネットでの情報発信。

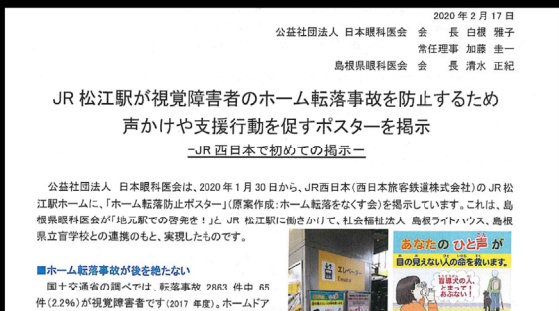
ホームページ：
<https://stoptenraku.jimdofree.com/>

Facebook：
<https://www.facebook.com/stoptenraku/>

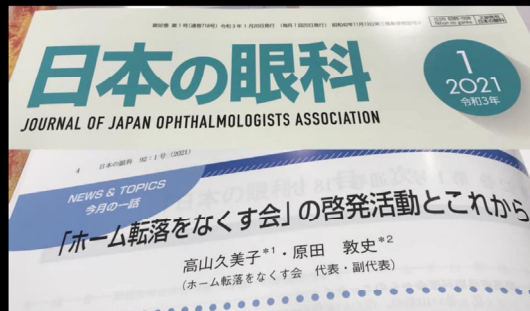
眼科医会との連携により眼科から発信

大阪府眼科医会では、会員へA3ポスターを郵送。各院内で掲示するように案内。

最近では、東京都眼科医会の働きかけで、東京の大手私鉄3社（東急97・京王69・小田急70駅、合計236駅）で、ポスターを無料で掲示していただけるようになった。



島根眼科医会の協力により駅にポスター掲示



日本の眼科に活動内容を掲載、ポスターも掲載し眼科医全体に広報

しかし、コロナ禍で必要な声掛けが減少

最近では外出先で戸惑うことが増えた。ウイルスの感染予防対策で、人との接触や会話がしにくくなっているからだ。

中国新聞

感染が拡大した2020年12月、通院でバスに乗車した。普段なら混雑時でも席に誘導してくれる乗客がいるが、声を掛けられることすらなかった。

河北新報

コロナ禍で人と人との接触が避けられるようになった。「声を掛けてくれる人が減った。嫌がられたくないと助けを求めるのをためらう視覚障害者もいる。

東京新聞

感染拡大に伴い、「街中で声を掛けてくれる人が少なくなった」と感じている。同行援護も断られることもある。

下野新聞

事故が続いたこともあり、鉄道各社・マスコミの声掛けで、一時は「声掛けが非常に多くなった」という声を当事者から聞くことが多くなっていました。



しかし、コロナ禍で「声掛けが減った」という話を聞くようになりました。



今こそ「一声をかけていただく」ようにお願いしたいです。

より安全に歩行するためには「白杖を使った訓練」が重要

白杖をもつ3つの目的

- ・周囲に自分が見えにくいことを知らせる
- ・路面の状況を確認する
- ・前方の安全を確保する

白杖は一本の棒であるため、使おうと思えばだれでも使えるが、3つの目的を満たすように使わないと事故につながる。



まず白杖を持つことは大事だが、安全に歩けることができるのが一番のポイント。

視覚障害者の専門家「歩行訓練士」について

歩行訓練士とは・・・

- ・ 見えない・見えにくい人が白杖を使って安全に移動できるよう、歩行訓練を指導するだけでなく、点字や音声パソコン・スマホ等の機器操作、調理・掃除・洗濯など生活に必要な動作の指導を行う専門職。
- ・ 4年制の大学を卒業、厚生労働省委託の日本ライトハウスの視覚障害生活訓練等指導者養成課程を受講し、視覚障害生活訓練等指導者の資格を取得します。また、国立障害者リハビリテーションセンター学院視覚障害学科を卒業し、視覚障害生活訓練専門職員の資格を取得することで訓練士になれます。
- ・ 現在までの修了者数(2018年3月)

日本ライトハウス視覚障害生活訓練等指導者養成課程修了者	527人
国立障害者リハビリテーションセンター学院視覚障害学科卒業者	215人

歩行訓練士の実際

歩行訓練だけという職員は少ない

○ 各施設における訓練士の勤務状況

勤務者数	専任で常勤	専任で非常勤	他の業務と兼任で常勤	他の業務と兼任で非常勤	歩行訓練とその他の訓練 常勤
186	34	6	125	16	4

実働人数を47都道府県で単純に割ると、1県3.95人の訓練士がいることになるが、実際は地域差があり、偏りが見られる。

○ 各施設における訓練士の配置人数

1名	2名	3名	4名	5名	6名以上
39	18	14	5	7	2

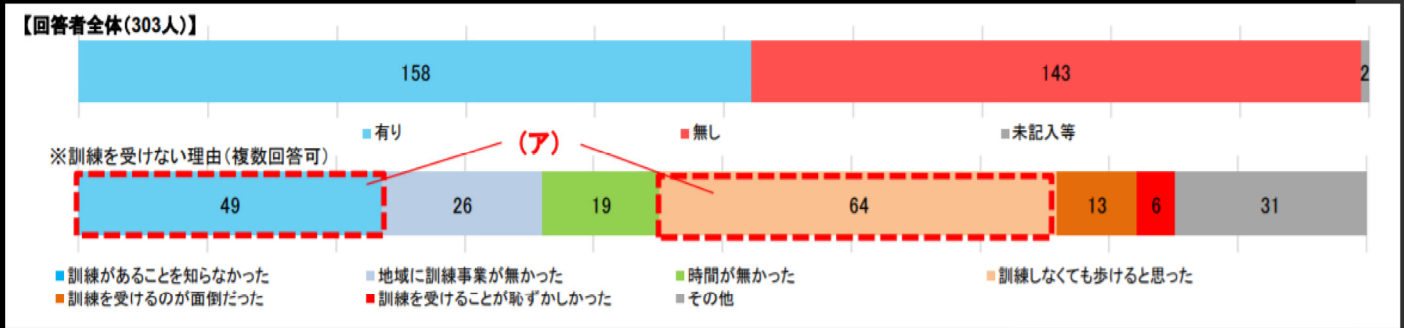
いずれも国の施設

岩手県、山形県、群馬県、奈良県、和歌山県では県内には訓練を提供している施設・団体はない。
※県外施設に委託しているケースもあり訓練を受けられないということではない。

例えば、駅ホームでの歩行訓練受講状況

国土交通省 ホームからの転落に関するアンケート集計結果

- 回答者の半数が駅ホームでの歩行訓練の受講経験あり。
 - 「訓練しなくても歩けると思った」「訓練があることを知らなかった」といった理由で、訓練を受けていない人が多い。※(ア) 参照
- ※転落経験後も同様の理由で訓練を受けない人が多い。



どの程度訓練を受講しているのか

視覚障害者の歩行や日常生活をより良くするための訓練（歩行訓練・生活訓練など）を受けたことがありますか。

(視覚障害障害当事者 225件)

	件数	%
①ある	137	60.9
②ない	86	38.2
無回答	2	0.9

回答者は情報を持っているようなグループであるにも関わらず4割ほどは受講していない。全体で見るとおそらく半数以上が受講していないと思われる。

- ・ 日本視覚障害者団体連合の加盟団体と日本網膜色素変性症協会に対して協力依頼を行い、全国に居住する両団体の会員に対して調査を実施した。回答者は1.2級で90%を占めた。
- ・ 調査対象者が視覚障害当事者団体を経由して集められたことから、福祉の情報に近い位置にいる視覚障害者が比較的多かったとも考えられ、回答結果に反映された可能性がある。

平成28年「視覚障害者のニーズに対応した機能訓練事業所の効果的・効率的な運営の在り方に関する調査研究事業」報告書より

まとめ 安心・安全な移動のために

①ハード面の整備

→ホームドア、点字ブロック等の充実

②ソフト面の充実

→声掛けサポートの充実

そのために多くの人が声掛けの方法を知ること

③見えない・見えにくい人が自ら安全の確保

→歩行訓練士の存在をしり、白杖の訓練を受けより安全な歩行へ

各団体の詳細をご覧ください。

ホーム転落をなくす会 <https://stoptenraku.jimdofree.com/>

日本歩行訓練士会 <https://nippokai.jp/wp/>